

物質構造科学研究所長に就任して

物質構造科学研究所長 小間 篤

この4月から物質構造科学研究所の所長になりました。3月までは、東京大学の副学長として、教育研究に加え大学の管理業務にも携わって参りました。専門分野は固体物性、特に固体表面物性の実験的解明であり、フォトンファクトリー



についてはその建設の初期から、その様子を近くで見聞きしてきたユーザーの一人でもあります。

ご承知のように、国立大学と同じく大学共同利用機関も明年4月から法人化されることになっており、この1年間は、高エネルギー加速器研究機構全体として法人化に向けた種々の作業に忙しくすると予想しています。特に、ユーザーの多くが所属している大学と共同利用機関との関係の今後のあり方については、十分な議論を尽くして、法人化後の状況によく適応した制度設計をしていく必要があると考えております。

物質構造科学研究所は、先端的な粒子加速器から得られる放射光、中性子、中間子などの各種粒子ビームを駆使して、広い科学分野の研究に寄与することを使命としていますが、このうち中性子と中間子の研究施設については、現在原子力研究所と共同で建設している大強度陽子加速器が完成する数年後には、主力が東海地区の方に移転することになっています。主力の移転後のつくば地区と東海地区の関係をどうするか、原研と本研究所の役割分担をどうする

かなど、新たな状況に応じた体制の整備が急がれます。

一方放射光施設についていえば、現在PFリングとPF-ARの2つのリングの運転により、真空紫外から硬X線までの幅広い波長のCWならびにパルス光の利用に供していますが、より特性の優れた光を出せる光源に関する将来構想を立て、その整備を図ることが急務となっています。第三世代のVUV-SX光源については、全国のユーザーの強い要請を受けて、3年ほど前から東京大学、東北大学ならびに本研究所の三者間で活発な意見交換がなされ、その建設に向けた努力がなされてきましたが、残念ながらその実現には至っておりません。この間努力をしてきたメンバーの一人として、できるだけ多くのユーザーが満足できる光源を一日も早く実現すべく、引き続き努力をしていきたいと思っております。

上述しましたように、物質構造科学研究所ならびに放射光施設の将来については、多くの困難な課題があり、皆様のご理解ご指導なしにはその解決はきわめてむずかしいと思われま。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



4月1日に行われた就任挨拶会場の様子